

主題	ブレデンスケールを指標としたポジショニングの取り組み		
副題	一定しないポジショニング方法と材料不足を解消するための試み		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">ポジショニング</td> <td style="width: 50%;">クッション</td> </tr> </table>		ポジショニング	クッション
ポジショニング	クッション		

研究期間	12 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム マザアス日野
発表者：越路雄祐（こしじゆうすけ）（OT）		アドバイザー：	
共同研究者：褥瘡排泄委員会			

電話	042-582-1161	メール	koshiji_yusuke@yahoo.co.jp
FAX	042-582-1730	URL	http://www.moth.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	マザアス日野は、「個別ケア」を念頭にご利用者の方々が、安心して暮らせるように生活支援しています。ご利用者やご家族の目線で、生活のニーズを探り、ケアプランを忠実に実行することで、ご利用者の望む居心地の良い環境や介護サービスを提供させて頂いております（HP より抜粋）。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

マザアス日野では、褥瘡排泄委員会を設置し、褥瘡や皮膚トラブルの発生予防を図っている。委員会は、各階（3フロア）から介護員1～2名（計5～6名）、看護師1名、作業療法士1名で構成されている。毎月委員会を開催し、利用者の皮膚状態を湿潤や栄養状態など6評価項目からなるブレデンスケール（以下、BS とする）により点数化して報告し、ベッドマット種類の変更などを行い、利用者への対応を適宜見直している。

利用者への対応の中にはポジショニング検討も含まれる。しかし、適切なポジショニングを徹底する事が出来ない、使用クッションが不足している事が、ポジショニングを実施する上で大きな問題となっていた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

はじめに、ポジショニング対象利用者に対

して、一定した方法で実施し、継続するために、何が不足しているかを明確にする必要がある。

次に、実際にポジショニングを行い、その効果を、介入と未介入の利用者グループの1年間の皮膚状態変化を BS で比較することで、両者に差異が生じているか検証する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

ポジショニング実施を徹底するために支障となった点は、介護員によりポジショニング方法が一定せず、使用できるクッションが少ないという現状があった。

ポジショニング方法の統一のため、主に機能訓練を担当している生活アクティビティ課（以下、AC 課とする）により各利用者のポジショニング検討を行い、検討写真を作成し、介護員が居室で確認できるようにした。また、AC 課により月1回ポジショニングの

勉強会を開催し、介護員がポジショニングの意義などの理解を深めるように図った。

ポジショニング用クッションを充実させるため、導入しやすい材料の選定、簡単な物を作る、ポジショニングが必要な利用者がクッションを購入するまでの一連の流れを作り、関係者の中で共有する事が求められた。そこで、クッションは高さの種類が複数あり、丸洗い可能で、経済的で、容易に入手可能な物を考慮して選定した。筒状クッションは布地から購入して加工した。クッション購入手続きは、所定の様式によりモニタリングを1週間行い、その結果を介護課、看護課、AC課で閲覧し、適応ありと判断したら、ケアマネにより、家族調整及び購入を進めることとし、関係者の役割分担を行った。

《4. 取り組みの結果と考察》

平成22年12月から平成23年11月までにAC課によりポジショニング検討し、写真作成した件数は延48件であった(実39名に実施)。その内、クッション購入がなされた件数は16件であった。入所定員102名に対して約40%の利用者に対して検討する事が出来た(平成23年11月現在の平均介護度3.82)。また、勉強会は平成23年5月から11月まで毎月実施し、延39名の介護員が参加した。平成23年1月現在の介護員総数は46名であり、約80%の介護員が参加した。

次に、ポジショニング効果を考察する。平成22年12月をすべての利用者にはポジショニングが徹底していない時期、平成23年11月を一部の利用者にはポジショニング介入がなされた時期とする。1年間のBSの変化が、ポジショニング介入の有無により差異が生じているか検討を行った(T検定)。介入有のグループ(n=39)のBS平均値の1年間の変化は-0.46154(P<0.05)、介入無のグループ(n=35)の変化は-0.58333(P<0.05)であった。BS平均値の1年間の変化が少ない

とは、皮膚状態の悪化がより少ないともいえる。よって、ポジショニング介入が皮膚トラブルの軽減に一定の効果があったと考える。

《5. まとめ、結論》

ポジショニングの徹底を図るため、検討写真作成、勉強会開催、クッション数の増を図った。さらに、ポジショニングによる効果を介入と未介入グループとの比較をBS平均値の1年間の変化で行った。結果は、ポジショニング介入をしたグループがBS平均値の1年間の変化は小さかった。

大田は遺体から前段のケア内容と身体活動の低下の期間からの2つの側面からなる高齢者の身体評価を提案している¹⁾。ポジショニング効果の結果は、ポジショニング施行することで一定の身体活動を行える期間を延ばし、より良い身体状態を維持する事に繋がるのではないかと思う。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

1) 大田仁史(2010):介護期リハビリテーションのすすめ. 111-124, 青海社, 東京

《8. 提案と発信》

クッションを導入する際、利用者や施設の費用負担が大きいと、結果として何も利用者に行わない状態に陥りやすい。量販店などで入手可能な安価な商品を活用し、まずは始める事が大切であると考えます。

【メモ欄】